

# 丸山久恵さん 100年インタビュー ①

～100歳のお誕生日を心から祝して～

## ●故郷のこと

- ・大正10年(1921年)2月24日生まれ。長野県下伊那郡大島村堤原出身。10軒くらいの小さい村で山に囲まれた盆地でねえ。東側がアカシ山、西側は西山と呼んでたよ。西山は姥捨で山で、昔寝たきりになったお年寄りをかついで山に置いてきたって父親が話してた。
- ・(私が生まれた日は)晴れた日だったって父親が言ってたよ。私が何かするっていうと、そう、遠足とかね、晴れるんですよ。

## ●家族について

- ・父親の名前は関 陽子帳(ようすちょう、享年89歳)。母親はヤス(享年92歳)。私は8人きょうだいの3番目。たった一人の兄は消防団に入ってたけど、消防車にはみ出して乗ってて横に倒れて下敷きになってねえ、30歳で亡くなったんですよ。一番下の妹二人が今も元気ですよ。父親は口やかましく厳しかったけど母親はやさしい人で怒ったことなんてなかったねえ。

## ●子供時代

- ・朝起きると部屋と中庭の掃除や雑巾がけ、鶏を飼っていたから卵を取りに行ったり、母親を助けようと言うことをよく聞く親孝行な子供だったよ。
- ・食事は麦ごはんと煮物くらいかねえ。お米なんてめったに食べられたもんじゃなかったし。釣り好きの父親が近くの天竜川で小魚を釣ってきて食べたりしたよ。野菜や麦、そばを果樹園の下で作ってたから。井戸があって、台所は土間で、囲炉裏で火をおこして土瓶でお湯をわかしてね、魚や母が作ってくれたあんこの入った「そばやき餅」を焼いて食べたもんで、おいしかったですよ。
- ・天竜川はあばれ川でね、渡し舟で向こう岸まで渡ってたけど、舟が転覆して人が亡くなることもあったねえ。収穫した果物は鉄索(ケーブルに吊るした籠に荷物を積んで、川の上空を行き来させるもの)で運んでいて、子供の頃はずうっと飽きることなく眺めてたもんだよ。
- ・女の子はお手玉とかゴムまりつきを歌いながら遊んでたねえ。夏は小さい川で泳いで、冬は雪が10センチくらい積ってゲタでは歩けないから靴を買ってもらってうれしかったよ。

(聞き書き/長谷川洋子・西崎麻子)



鉄索イラスト/馬場敏美